

2017年どきどきフリーマーケットDKS出展

日本キネシオン協会 関東地区 賛助会員
(株)アーネストDKSリージョナル 河本 悦子

【はじめに】

2016年7月「癒しフェア(東京ビックサイト)」に共同出展で健康関連事業者を取りまとめるUGA&COという会社からのお誘いで出展し、2016年11月難産の末ではあるが、7名の新会員入会を獲得できた。同じ会社からの企画で、出展料が格安であること、千葉県の有名なイベント会場である幕張メッセで行われ、イベントとしては関東一円から一般参加者20万人動員で日本最大のイベントであること、癒しフェアにも出た健康事業者がまとまり一画を構成すること、などを考慮して、月例会出席幹部と新会員全員の出展に賛同と協力を得られて出展を決定した。

しかし、仮申し込み後に、ブースが仕切られていないこと、詳しい展示場所がわからないこと、スペースも曖昧であること、個人出展者が1スペース1日8,000円で同じ広さであること、主催本部に問い合わせで展示場所も個人参加者との違いも解らず、UGA&COからも明確な回答がなく、窓口の坪井副理事長からの聞き合わせでも曖昧なままであったが、健康デモンストレーションを伴う企業スペースの料金を調べ、企業スペース以外デモはできない、という主催本部への確認で、不安もあったが見切り発車の形で出展した。

特にポスター展示が大々的にできないことが最大の心配。まだDKSの説明能力を学び始めて半年のメンバーでポスターを読みながら、道行く一般のフリーマーケット目当ての方々を呼び込めるだろうか？月例会以外に毎月2回程度JKA関東事務所に通い、熱心に補講を受けてくれる新会員に期待はあるものの、実践経験のなさからどのように皆様に活躍して戴くかが悩みの種でもあった。

【5月2日設営】

(株)アーネストDKSリージョナル内のハンガー立て、パンフレットスタンドを他のブースとの仕切りとなるよう解体して小さくまとめ、(株)クオンのミネラ

ルウォーターサーバーセットなど必要な備品を準備していると、「JKA本部事務所からの荷物があるが、幕張メッセのどきどきフリーマーケット内に“癒しコーナー”および“日本キネシオン協会”という表示もなく、主催者に聞いても日本キネシオン協会のスペースは判らない」というヤマト運輸のドライバーからの電話があった。UGA&COの関係者も傍にはいない、とのことで、ギリギリ迄展示場所を聞き合せてくれた坪井副理事長にUGA&COの宇賀社長に電話して場所を聞き合せて貰ったが、宇賀社長とは連絡取れず、我々二人が現地に着いて場所を確認したら、再配達してくれるという。

坪井副理事長がJKA関東事務所に立ち寄り、イタリアに持参した大きい旅行鞆にバインダー・資料・ポスター立ての代用品となる金属の部品を目一杯詰め込み、クオンのサーバーセット、スタンドの部品の長いものを、坪井・河本で分ち持ち、池袋経由で階段のない所を巧みに探して、1時間30分後、特に幕張メッセの建物を見つけてから、迷い迷いつ、第4ホールにたどり着いたが、やはり場所の表示がなく、宇賀社長に聞いて漸くしてヤマト便に連絡し、JKA本部事務所からの荷物を受け取ることができた。

ミニゲルマ3粒でDKSの効果をわかってもらい、ベテランは有料1コイン(500円)で追加5粒貼付、骨盤調整や栄養指導でも手の空いた者が500円を貰い追加施術し、ミニゲルマ代他の経費を少しでも埋め合わせ、できるだけ多くの見学者にJKA関東月例会を来て戴くという予定であった。

設営を始めると、当協会は第4ホールの大きなシャッターが空いている搬入口の真前で、ポスターを張ろうとすると強風が吹き込み破れる場所であった。広く使って良いと元々言うてくれており、実際、開園後の癒しコーナーは2から3組以上2m×4mの(64000円税込)のスペースが空いている状態。直前に机1個と椅子2つはサービスという条件

に対し、机は有料注文予定の1個はあるが追加注文の椅子3個は届いていない。

2m×4mの後のスペースも使っていないからと、椅子2脚分と机も2台の請求があったが、後のスペースは使わないから、机は元の1台サービスに変えてほしい旨を坪井副理事長から宇賀社長に申し入れて戴いた。合わせてシャッターの空きと風によりポスターが敗れることについて聞きわせると明日は開場時にはシャッターが閉まるとの、ことであった。場所を倍にして貰えば、ますます椅子が必要になるので、場所の拡大はしない。それでも椅子は+5脚注文するので机は1台のみの支払いとして貰いたい旨を、サービスの最終確認をした坪井副理事長に念押しした。最低必要な設営をして、ポスターの残りは明日目前のシャッターが閉まったら行うこととして18時近くJR海浜幕張から帰宅した。

【5月3日】

坪井副理事長・溝口寛実会員・森博樹会員・中村真人会員・中野節子会員・海沼ひろ子会員・河本の7名と相田公弘元会員が誘導役を買って出てくれ8名で終日、午後からJKA関東事務所のお客様の福岡益美様・近畿支部の西村かおり様・齋藤弥壽子会員の3名が加わり、集客体験も55名であった。

開場してもシャッターは閉まらず、椅子5脚の追加もそろわず、何回も設営の為シャッターを閉めるよう申し入れに、坪井副理事長、森会員に主催本部や宇賀社長に申し入れて貰ったがらが明かず、寒く感じるほどの時折の突風で他の出展者からの要請もあったようで、シャッターがしまったのは11時過ぎであった。その間施術ができず、設営もだらしな印象であったことを除き、相田氏の説明誘導アンケート記入



【5月4日】

坪井副理事長・森博樹会員・吉井知美会員・早川雅浩会員・河本の5名。午後から前田勝弘会員が誘導役として応援。

この日も朝からシャッターが空いたままで、何度も坪井・森両氏の申し入れにも拘らず、シャッターを閉めないの、一時は撤収も考えたが、風が昨日より少なく、他店はクレームがないということであったので、ホールのシャッターのラインから外れる空きスペースに移動し、再設営。昼迄落ち着かなかった。

時折の風でポスターが破れるので、設営の向きを何度も工夫したが、昼近くシャッターが閉められた。最初から閉めてくれたら良かったのに…と一瞬考えたが、UGA&COとの共同出展は出展料が安くなるので関西産業フェアの代替りの出展先を坪井副理事長が交渉しなければならないことを鑑みて、DKSデモに集中することを決意した。

実質上の昼過ぎからの対応で44名。吉井会員がDKSデモを楽しみ、と表現してくれた。早川会員の呼び込みも上々。森会員は3日に中村会員と共に呼び込み役も買って出てくれたが、この日に大腰筋を必ず徹底してパフォーマンスしてから、その貼付効果をみて次の2か所を選ぶ、という基本パターンをかなり深く理解してくれたように見えた。

人数が少ないので、この日の昼食は皆さん10分から15分で済ませてお客様に集中していた。1日目で良かった方が知り合いを連れて5粒の有料追加を求めて下さったことがこの日は印象深かった。



【5月5日】

坪井副理事長、森博樹会員、海沼ひろ子会員・河本の4名。坪井副理事長のグループは沢山のお客様が基本講座を受けていたので、誰か1名でも誘導係として助っ人を借り出してほしいと4月の月例会後からお願いしてきたが、どうしても難しいとのことであった。

「案ずるより産むが易し」で、この日は朝から混雑が下火であった。並んでいる人が少ないと中々体験しようという気持ち起きない群集心理を確かめた。この日は15名であった。

16時半終了と書いてあったが3日・4日と同じく、16時45分から蛍の光が流れた。

屋外状態に近い場所での展示となるとは、全く想像していなかった我々ではあるが、ブースの位置が当日分からないスタートでは何か対応できない困難があることは懸念していた。想定外に対応することも、団体催事での学びであると、今回考えることができた。

代金の清算が気にかかっていたが、机代1台にサービスは伝票を書いたのでできないが椅子5脚追加は請求されない、というのが、坪井副理事長の宇賀社長への交渉結果で、支払い額は椅子の追加分の方が上回っている。大変ありがたい結果となった。個人事業者で「阿吽」の呼吸で一緒に出展してきたUGA&COグループと上手にお付き合いすることは、なかなか困難である。

特にシャッターの開閉については、開場したら閉まると宇賀社長が明言されていたそうですが、「どきどきフリーマーケット本部」も意見が統一されていないようで本当に困りました。臨機応変に対応できる坪井副理事長にお任せしたことで、全て小難で済みました。

開場中の想定外の出来事の対応に手本を示して下さった坪井副理事長に、関東支部の全会員を代表して深く感謝します。



【催事出展の意義】

JKAというNPO法人では、DKS療法を社会で実践する為に学ぶ。目的は筋力バランス療法の専門家養成である。

医療は専門家に任せる、という面が多いし、医療機器や医薬品、医療行為も、全て自らの治癒力に頼っているのは死を招く命の瀬戸際に有効であり、慢性症状に対しては専門家でも最先端医療でも、遺伝子治療でも、利用者の生活態度如何では全く無効となる。切迫した症状ではなくても、医療の専門家が上手に医療機器や医薬品を活用する適切な医療行為の利用により、健康な生活を取り戻せ

ることもあるが、専門家の判断ミスで(病状が悪化する、医療過誤を起こすなど)生命の危機を招くこともあり得るから、専門家でない我々は医療について自分の考えを専門家に述べることは難しい。医療過誤が起っても、医療知識のある弁護士を介してでないと裁判では係争できない。

我々の分野は“健康”であり、健康維持・向上には本来は専門家が不要である。全ての社会人は自分の健康管理については自立自尊で行うべきではあるが、健康状態が崩れた時に、どう医療を利用するか、どこまで自己管理できるか？を正しく判断する為には、医療の基礎である解剖学・生理学は中学生迄に必修科目でまなぶべきではないか？と思う反面、家庭教育で両親祖父母が健康学を修め実践していれば、特に学ぶ必要もないのかとも思う。

しかし、健康は全ての国民の幸福に関わる重要課題でもある。生活習慣から発する諸症状は医療では治らない、という事を知り、何か症状が出た場合、一時的には医療の力を借りるにせよ、自分で治める、という健康管理術は、社会に出てからこそ学ぶ必要があると感じるものである。

自分の健康は自分で守る、という厚生労働省のスローガンを、筋肉に特化して普及してきた団体が家庭健康研究会であり、NPO法人日本キネシオン協会である。

近づく高齢社会のピークには、両親の深刻な病気が子供達の経済を破綻させることもあり得るし、日常動作が出来ない場合や認知症を含む病状を伴う介護の費用面での負担は、次世代の生活水準に影響する。

健康については誰もが平等に自分の体の専門家になる学びができるはずである。しかし、自分の身内以外の健康問題を解決できる専門家を目指す学びの場が、JKAである。

長くDKSを学び、DKSご愛用者に恵まれてきたDKS事業者会員であっても、絶え間なく様々なお客様に接し相手に改善結果を評価して貰う機会を求めない限り、筋肉の専門家として通用しない。それ故に困難で面倒な催事に出席するのである。